

日常的な運用支援も更新時も きめ細かな並走が決め手

個人情報の取り扱いが適切であることを証明するプライバシーマークは二年ごとに更新する必要があり、日常的に個人情報保護マネジメントシステムが正しく運用されていなければならない。株式会社ネクストビートでは、どのように運用しているのだろうか？ 執行役員三井陽一さんにうかがった。



株式会社ネクストビート
執行役員CIO/CPO/VPoE 情報セキュリティ責任者
三井 陽一さん

三つの軸での運用が必須 自社事務局の負荷が課題に

株式会社ネクストビートは二〇二三年、保育業界に特化した転職支援サービス「保育士バンク！」から事業をスタートした。その後、子育て支援を拡充した「ライフイベント領域」、宿泊業界専門のHR事業を基盤とした「地方創生領域」、シンガポールの観光業界を支えるHRテックソリューションサービスを展開する「グローバル領域」を柱に、プラットフォーム群を構築。掲げているミッションは、「人口減少社会において必要とされるインターネット事業を創造し、ニッポンを元気にする」だ。

事業に深くかかわるプライバシーマーク(以下Pマーク)は創立間もない二〇一五年に取得し、以降、二年ごとに更新を続けている。

三井陽一さんが個人情報保護責任者に就任したのは、二〇二〇年。そのと

き、個人情報保護マネジメントシステム(以下PMS)を運用する同社の事務局は、大きな課題を抱えていた。

「事務局は情報システム部が兼務しているのですが、年々負荷が大きくなっていくのです。たとえば、各地の保育園を訪問しやすくなるために全国に二の拠点フラグを増やしたことで、メンテナンスすべきインフラが増えました。こうした事業拡大は、PMS運用を複雑にします。現在、当社には開発部やマーケティング部など職能別の「機能軸」、展開している九つの『事業軸』、そして二〇の『拠点軸』が存在します。三つの軸全てでPMSを適切に運用するのは、兼務の事務局だけでは無理がありました。さらに、ベンチャー企業ならではの、いわゆるフットワークの軽さで、当社は変化が早いのです。人事異動も多く、PMS運用のナレッジがなかなか集約できずにいました」

自社の事務局以外に頼れる存在が、切実に求められていたのだ。白羽の矢が

した。

「従業員の階層やポジションによるリテラシーレベルの違いまで考慮してくださるなど、サポートは非常にきめ細かなものでした。個社別の悩みに対し、大事に、真摯に向き合っていることが伝わり、お願いして良かったと思っています」

法改正や事業拡大に合わせ 適正なPMSをカスタマイズ

運用支援は、月次の定例会とチャットによる日常的なコミュニケーションで行われる。定例会では、社内体制の変更や法改正のタイミングで、方針スケジュールの策定を支援したり、フォーマットへの改善アドバイスをしたりする。

「社内にも法務部門があるので、いったんは自社で仮説を立て、それを基にフォーマットを作ります。日本パープルさんには、法改正の内容が正しく反映されているか、専門家の視点からチェックをお願いしています」

ポイントや運用上のトレンドを踏まえたレビューは、社内で伝わりやすいように言葉を見直すなどのカスタマイズを施した上で、PMSに反映する。

チャットは急ぎの相談ごとに使っているが、いつでもつながるコミュニケーションチャネルが確保されている安心感は大きい。

「びつくりするほど返答が早いのです。何を聞いても期待を上回る速さで回答があるので信頼しています」

運用支援は受けていても、日々、個人情報

情報を扱うのは現場の従業員だ。従業員のリテラシーを維持するため、年に二回は全社研修を実施する。異動先ではそれまでとやり方が違うケースもあるため、定期的なマインドセットは振り返りの良い機会となる。Pマークの取得は従業員にとって、「自分たちの個人情報扱いが適切である」と、第三者の監査が認めたと証した。更新時に審査員のヒアリングを受ける経験も、緊張とともにモチベーションを高める。社外に対してだけでなく、社内に向けても意味のあるマークといえるだろう。ネクストビートでは、今後も維持に努めていく。

「自走を目指していきますが、新しい事業や外部環境の変化に関しては、引

立ったのは、以前から運用支援に入っていた株式会社日本パープルだった。

日本パープルは、企業のPマーク取得から運用までをサポートする。情報セキュリティ分野での実績は四〇年以上を誇り、業界のトップランナーだ。専門知識と最新事情に精通し、二万を超える事業所との取引を通じて、企業のセキュリティ体制に関する知見を豊富に蓄えている。それらを基に、机上論ではなく実践：定着を目指した提案を行うのが最大の特長だ。

「運用支援の一端をお願いしていたことから、当社の事業についても詳しく把握されました。最初から大変実用的な話ができたので、これは本当に助かりました」

一般論では、すぐに自社で応用できない。日本パープルは、業種や規模にも照らし合わせ、PMS運用でつまずきそうな課題を洗い出し、ネクストビートの体制に適した管理・保持の仕方をアドバイス

き続き支援をお願いしたいと思っています。特に助力をお願いしたいのが、内部監査ですね。監査員の育成が急務なのですが、会社の成長拡大のスピードが速すぎて追いついていないのが実情です。今はどうしても本業との兼務になっており、十分な独立性が担保されにくい。専任の監査員が育つまでは日本パープルさんが頼みです」

同社がPMSを運用しながらPマークを維持する先の展開として考えているのが、より良いサービスの提供を目指し、法令遵守の範囲内で情報を活用することだ。本格的な始動に備え、データサイエンス・オフィサーも参画し、個人情報の保護と活用を高い次元で両立させることを目指している。

来年、創立二〇周年を迎えるネクストビートは、「人口減少社会において必要とされるインターネット事業を創造し、ニッポンを元気にする」ために事業を拡大していく。事業の根幹を支えるPマークは、今後も変わらず、社名とともに表示されるはずだ。



日本パープルの「カスタマイズ型」プライバシーマーク 取得・更新・運用支援サービスの特長

社内のリソースが限られている。手間をかけずにPマークを取得したい。

→ 社内の手間をかけずに認証取得

個人情報保護の取り組みなど、自社に合った体制・ルールを構築し、将来的には自社で運用していきたい。

→ 自社に合った運用しやすい仕組みを構築

取引先からPマーク取得の要請あり。とにかく早くPマークを取得したい。

→ 最短スピードで認証取得

親会社や海外も含めたグループ企業のポリシーに足並みをそろえて文書を整備したい。

→ 親会社やグループのルールに沿った文書作成



お問い合わせ
株式会社 日本パープル
Tel: 050-1754-0208
(受付時間 平日9:00~17:30)
https://www.mamoru-kun.com/security_consulting/